

- 当事者、家族会、その他関係者から精神医療センター移転に反対する御意見を頂戴し、「名取市へ移転・統合する新病院」へ精神科外来等を確保すべく調整していたが、それでも反対理由の解消には至らないとの御意見・御指摘

移転そのものへの反対、県南の受け皿の弱さ

- ・ 仙南の初診外来は予約待ちの状況、救急で精神医療センターへという現状の県南の体制の弱さ
- ・ 名取市内での建替えが本当にできないのか。
- ・ 移転は、精神医療センターを中心に作られてきた地域コミュニティ・文化を壊してしまう。

外来と入院の接続の難しさ、急性増悪への対応の必要性

- ・ 県南の精神科外来の患者の急性増悪の対応について、入院施設へのスムーズな接続及び搬送手段の確保の必要性・難しさ
- ・ 県南の精神科外来と富谷市の入院（異なる運営主体）の連携の困難、入院対応時の物理的距離による弊害
- ・ 外来から入院までの一連の対応が可能な精神医療センターを選んでいる患者もあり、外来機能のみとなった場合には、対応に苦慮する可能性
- ・ 入院と外来が別の病院というのは、患者にとって好ましくない。
- ・ ソーシャルワークが必要な患者は精神医療センターに集まる。グループホームとの関係構築が退院促進に必要
- ・ グループホームに限らず、外来から急変する患者は多い。

入院機能（病床）を求める声、総合病院精神科の難しさ

- ・ 県南に外来機能を残せばいいという考えはおかしい。入院機能を持った病院が県南に必要
- ・ 総合病院の外来対応はうまく機能しない。
- ・ 症状が重い患者を紹介できる病院が地域からなくなる心配。南の新病院に入院機能があるとよい。
- ・ 北の対応も理解するが、南にも病院を増やしてほしい。24時間対応できる病院を増やしてほしい。
- ・ 精神医療には入院機能は必要

にも包括の推進（二次医療圏内での完結）

- ・ 二次医療圏単位での対応が原則。措置入院を回避するために、医師（マンパワー）を地域に派遣する必要性
- ・ センターの県南における精神保健福祉センター的な障害者福祉を支える機能を維持するため、具体的な方策を提示すべき。移転にあわせて、県全体の底上げの議論が必要。
- ・ 圏域の中で入院しない又は措置入院となっても圏域のなかで生活していくことが必要。全県の救急とも包括の矛盾があり、国の政策にも逆行。

移転後の対応等

- ・ 南の患者への支援体制が具体的に示されていない状況では、移転を認めるわけにはいかない
- ・ 移転した場合、いきなりなくなるのは名取の患者は困る。移転前にならしの期間が必要ではないか。早めに体制は作っておくべきではないか。
- ・ 移転する場合、現在の精神科医療に即した形で、南の体制をどう充実させていくか。
- ・ 富谷で社会資源、グループホーム、入居のための相談支援事業者の整備が必要。

これらの御意見・御指摘を受けて

- 県立2病院、仙台医療圏の課題解決に向けて、県立精神医療センターの富谷市への移転が必要
○ 官民連携による精神科新病院の名取市内への開設（開設者を公募で選定）をはじめとする、県の精神医療・保健・福祉システムの継続性の確保に向けた施策を提案